



生物の楽園「東洋のガラパゴス」西表島

沖縄県、南西諸島に位置する西表島について紹介します。

島の面積のうち、なんと9割以上が人間による開発が行われていないままの原生林となっています。

西表島の大ジャングルには、さまざまな生き物たちが生息しているのが特徴です。

生物相としてはイリオモテヤマネコやカンムリワシ、セマルハコガメなどの国指定天然記念物を多く有しており、学術的にも非常に貴重な場所として知られています。

さらに動物だけでなく、ジャングルには稀少な植物たちが生育している点も見逃せません。

そして仲間川流域のマングローブは日本全体のマングローブ面積の約4分の1を占めており、なんと日本のマングローブのうち80%が西表島にあるといわれています。

他にも板のような形状の根を持つサキシマスオウノキ、ジャックと豆の木のモチーフになった日本一大きな豆モダマ、有名なガジマルなど、とても列挙しきれないほど珍しい植物であふれた島です。



仲間川の
カヌー体験



西表島

西表島は沖縄本島より約440km南西に位置しており、沖縄県では沖縄本島に次いで二番目に大きな島です。

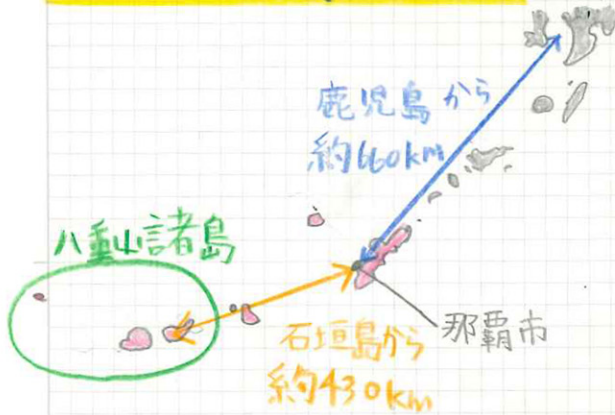
西表島は行政上「沖縄県八重山郡竹富町」に属します。

西表島に空港はありません。まずは石垣島まで飛行機か船で離島桟橋から高速フェリーにのります。

台風シーズンは暴風や高波、視界不良により全便が欠航になるケースもあります。

島の北西から南にかけて外周をぐるりと東に回るように道路が通っていますが、南西部へと向かう道路はありません。

★八重山諸島について



八重山諸島は北緯24~25度、東経122~124度、南西諸島の中でも台湾に近い南西端に大小32の島々で構成されており、与那国島が最西端に波照間島が有人島の中で最南端に位置しています。亜熱帯海洋性気候に属し、気温の平均値は約24度と暖かく湿度は72.0%と高いです。八重山諸島の周囲を流れる黒潮の影響により年間を通して気温の変化は少なく、年間降水量は梅雨時期と台風時期に集中しており、この時期に降雨が少ないと干ばつになりやすい傾向にあります。

由布島へ向かう
水牛車



日南映像 NIPPON 52



日南映像 NIPPON 52



西表島と言えばマングローブ!

亜熱帯気候の環境が生み出しているのが島の最大の個性であり魅力でもある大ジャングル。なんと広大な西表島の面積のうち、9割以上をこのジャングルが占めているとされています。

このジャングルには稀少な動植物が多数生息していることから、海に面した外周部以外の開拓や開発はあまり行われていません。

西表島の川は豊富な降雨で水量が多く河口部は海水とまざる汽水域となっています。

マングローブというのはこの汽水域に生息する植物の総称です。

マングローブの代表的な種類はヒルギ類です。

国内に生息するヒルギ類は全部で3種類あります。

・ヤエヤマヒルギ

・メヒルギ

・オヒルギ



↑
ヤエヤマヒルギ
(支柱根)



↑ オヒルギ (屈曲膝根)



西表島で見られる植物

サガリバナ

亜熱帯気候の湿地帯に自生し、日本では奄美地方と沖縄地方のみ自生しており、西表島が最もきれいに見ることかできると言われています。

幻の花とよばれ、5月～8月の夏頃の季節限定の花です。夕方から夜にかけて咲き始め、夜明けとともに夢く散ってはいず。



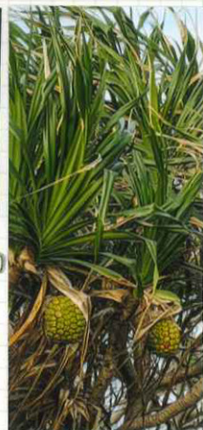
ナリヤラン

熱帯アジアに広く分布し、日本では八重山諸島に自生します。カトレアのような花を咲かせる野生ランです。



アダン

厚く硬いアダンの葉は、加工することによって、パナマ帽などの材料に利用されており、パイナップルに似た実はゴツゴツとした皮に覆われた特徴的な姿をしていて、ヤシガニの大型物となっています。さらにアダンの若芽は食用として利用されることもあるため、西表島の文化に深く根付いた植物だと言えるのです。



パイナップル

沖縄県下でパイナップルが収穫できるのは、沖縄本島の一部の地域と石垣島、西表島、宮古島です。その中でも、西表島のパイナップルは、甘みがよく、美味しいとされていて有名です。西表島では、例年4月の末頃から8月あたりまで収穫が行われて、時期に応じて品種が変わります。人気のビーチバインは、一般的なパイナップルよりも小さなサイズで、その名の通り桃のような香りが特徴的なパイナップルです。

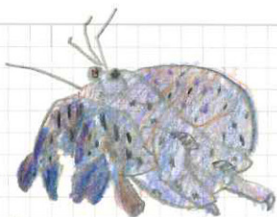


島バナナ

普通のバナナの半分ほどの大きさで、生産量が少ないために島でも貴重なフルーツで濃厚な甘さと酸味を併せ持っています。南国らしい爽やかな味わいで一般的なバナナの10倍ほどの価格で取引されている高級フルーツなのです。

西表島に住む陸の生き物

野生動物たちは夜に多く活性化する。



西表島の動物たちの姿を目にしたらいいのであればジャングルナイトツアーに参加してみるのがオススメです。

ヤシガニ

体長40cm以上に達し、甲殻類としては非常に大きな体を誇るヤシガニは、マングローブ林などで出会うことができます。

ヤシガニはヤドカリの仲間ですが、水の中ではくらすことができない生態であり基本的には陸上でくらしています。

セマルハコガメ

西表島に生息している天然記念物の一つで、敵に襲われると腹部の殻を丸め、箱のように殻を密閉してしまうという面白い特徴を持っています。土地の開発や飼育目的の乱獲などで世界的には数を減らしている亀であり、西表島で平和にくらしている姿は貴重です。

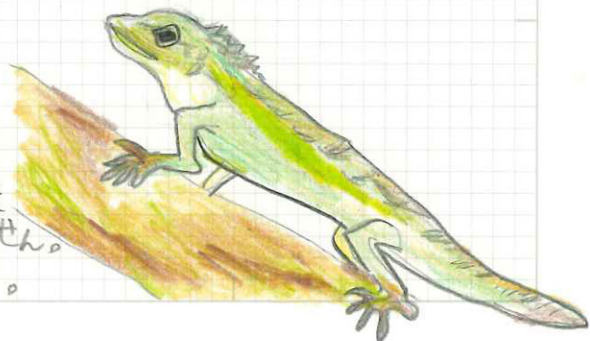


ヤエヤマオオコウモリ

首のまわりに、まるで首輪をしているような白い輪の模様があるのが特徴で、翼を広げた体長は約1mを大きく超え、体重は大きいもので400gにも達する大きな体をしています。人に危害を加えることはなく、人を恐れることもないため、人間の生活圏を飛び回っています。

キノホリトカゲ

絶滅危惧種とされ、名前の通りよく木に登る特性を持っており、民家のそばの木などにくっつくことも少なくありません。大きいものでは体長が30cmにもなります。



・カンムリワシ



カンムリワシは東南アジアから沖縄県までのエリアに分布している鳥であり、西表島ではあちこちでその勇壮な姿を目にすることが出来ます。天然記念物に指定されていますが、道路で車に轢かれてしまうロードキルが西表島ではたびたび問題になっています。

・リュウキュウアカショウビン



夏場に沖縄の森林でキョロロロという鳴き声を聞いたなら、それはおそらくリュウキュウアカショウビンが縄張り争いをしている声です。赤いくちしと赤ネ色の体をしています。

・リュウキュウコノハズク



リュウキュウコノハズクは体長およそ20cm、黄色い目、茶色い羽をした小型のフクロウであり、主に木の洞などを住処としています。

・オオゴマダラ



沖縄県の県蝶で白地に黒いまだら模様の日本最大種の蝶。隣接する由布島の蝶々園で黄金色のサナギを見ることが出来ます。



↑由布島の蝶々園

・ヤエヤマヒメホタル

八重山諸島には9種類のホタルが生息しているとされており、その中でもヤエヤマヒメホタルは西表島、石垣島にしか生息していません。体長はわずか2~4mmと日本最少のホタルで、2~5月までの期間でしか見ることができません。



イリオモテヤマネコ



イリオモテヤマネコは、西表島にのみ生息しており、山地のふもとから海岸にかけての低地を領域としています。

通常のヤマネコはねずみやうさぎなどの小さな哺乳類だけを餌にしています。しかしイリオモテヤマネコはカエルやトカゲ、虫やコウモリなどといった豊富な生物を選び好みなく食べる生態であり、そのおかげで絶滅することなく進化を遂げてきたとされているのです。世界的に見ても、小さな島にヤマネコのような肉食の動物がくらせているのは稀な例だそうです。



イリオモテヤマネコは、主に夜行性で、特に日暮れ時や明け方に活動に動きます。イリオモテヤマネコは特別天然記念物に指定されています。現在も、とも絶滅のおそれが高い絶滅危惧IA類となり、生息数は100頭(2008年調査結果)で減少し続けています。

その原因として最も深刻な問題は交通事故なのです。

西表島には『イリオモテヤマネコ運転注意マップ』というものがあり、日けきの多い場所には看板が立っています。この看板は移動式で赤黄青の3色で発生度がことなります。道路は40kmの速度制限があり、ヤマネコをはじめとする野生動物の急な飛び出しに対応できるようスピードを抑えなければなりません。

★イリオモテヤマネコの木封木

西部には町民の方々が日々そうじを行い、せん定されたイリオモテヤマネコを形とった、樹封木が見られます。

西表島で見られる海の生き物

西表島を取り囲む青い海には、水族館でしか見ることのできない生物たちが悠々と泳いでいる姿を見ることが出来ます。

ウミガメ



おとぎ話やアニメ映画でよく見かけるウミガメは、現在絶滅危惧種に指定されている希少な生物です。水族館以外ではなかなか実物と出会うことができませんが、なんと西表島では、マカウミガメ、アオウミガメ、タイマイと3種類ものウミガメたちと高い確率で出会うことが出来ます。

マンタ



マンタはエイの仲間であり、2~5mほどの大きく平たい体を巧みに使い、羽はたくようには泳ぐ姿が印象的な生物です。絶滅危惧種の希少な生物ですが、西表島近海ではナンヨウマンタとブラックマンタの2種と出会うことが可能です。

カクレクマノミ



映画『ファインディング・ニモ』の主演として一躍著名度を高めた熱帯魚カクレクマノミも、西表島の海で見かけることが出来ます。臆病な魚で、小魚がると、すぐに共生しているイソギンチャクのガビにかくれています。

ルリスズメダイ



青く光沢のある体をしたルリスズメダイは7cmほどの小さな魚ですが、名前の通りの瑠璃色をした姿はまるで宝石のような美しさを持っています。

西表島で見られるサンゴ



世界に生息するサンゴは、約800種類ほどといわれています。その中で、沖縄県周辺の海に生息するサンゴは、約350種類あります。半分以上の種類のサンゴが沖縄県周辺の海に生息しているといえるのです。

西表島は、沖縄県の島で、周囲を海に囲まれ、豊かな海洋環境を有しています。その海には、サンゴ礁が豊富に存在しています。例えば、石西礁湖とよばれる、石垣島と西表島の間にあるサンゴ礁の海域は、日本最大規模のサンゴ礁域です。ここは、西表石垣国立公園の一部として、指定されています。

西表島のサンゴ礁は、多種多様な海の生き物にとってとても重要な場所になっています。例えば、魚の産卵場所、エサが外敵から身を守り、成長するための隠れ家など、西表島の海中生態系を支えているといえるのです。西表島でくらす人々にとって、サンゴ礁は大切な役割を果たしています。サンゴ礁の周辺に生息している魚など、島の食生活を支える重要な場所です。

★地球温暖化によるサンゴの白化現象

近年サンゴ礁の白化現象が進んでいるとされ、サンゴの形成や成長などに関して、危惧されています。白化現象とは、サンゴと共生関係にある褐虫藻がサンゴから抜け出し、その結果、サンゴの骨格が透けて白く見える現象のことです。白化が進むと、サンゴは死んでしまうのです。



サンゴでペン立て作り

オススメの八重山地方の名物

八重山そば



石垣島や宮城島を含む地域で食べられている八重山そばは、細めのストレート麺で断面は丸いのが特徴です。地元の人々は、八重山そばに「ビパーチ(島こしょう)」と呼ばれる香辛料をかけて、味の変化を楽しみます。ビパーチはヒリッとした辛みとシナモンのような甘い香りを持ち、八重山そばに欠かせない言調味料です。

石垣牛ステーキ



石垣牛はきびしい条件を満たした牛のみが言認定されるブランド牛です。赤身と脂身のバランスが良く、とろけるような食感と豊かな味わいが特徴です。塩やわさびで食べると、肉の甘さがさらに際立ち、石垣牛の味を存分に楽しめます。

チャンプルー

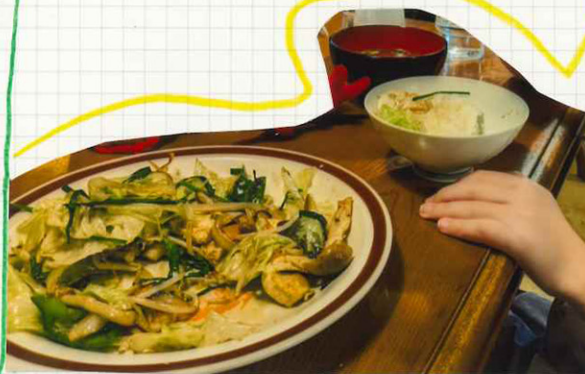


「チャンプルー」は火烹いた島豆腐と季節野菜の炒め物のこと。ソーミンチャンプルーや、フーチャンプルーのように豆腐が入っていないものも、チャンプルーと呼ばれることもあります。

チャンプルー
おいしいな♡

ラフテー

西表島のラフテーは
イミ肉(カマイ)を
使っているよ!



八重山諸島の星

日本の最南端に位置する八重山諸島は、北緯24度にあり、南半球の星や星座が多く見れます。21個ある一等星の全てと、全88星座のうち、84星座を見ることが出来ます。本州では見られない星も多く見ることができ、観測できる星の数は、日本で一番ともいわれています。

★八重山諸島で見られるオススメの星



はいむるぶし
(南十字星)

冬から春にかけての星空は、八重山の方言で「はいむるぶし」とよばれる、四つの星がクロスするのが特徴的な「南十字星」がオススメです。南十字星は南方にある星座のため、北半球では、なかなか見ることができない珍しい星座です。また、夏から秋にかけては、八重山の方言で「てんがら」とよばれる天の川を楽しむことができます。

★日本初「星空保護区」に言認定

八重山諸島ではここ数年、星空が人気のツアーになっています。

中でも西表石垣国立公園は、2018年日本初の星空保護区に言認定されました。星空保護区は世界では欧米を中心に約90地域が言認定されています。星空保護区は、国際ダークスカイ協会が定める基準を満たした地域に与えられる称号です。

光害対策が徹底され、暗い夜空と星のみえやすさが守られています。



てんがら
(天の川)



わし座
(ひこぼし)

こと座
(おりひめ)

